

SY-6 透析療法の発展と現状

山口大学医学部附属病院 ME機器管理センター

○岡田 悠

人工透析の歴史は約1世紀半前、Thomas Grahamらによる透析の原理の発見から始まり、1945年にKolffらによる回転ドラム式血液透析装置を用い、尿毒素を除去することで急性腎不全症例を救命したことから透析療法が認知された。その後、透析液組成の工夫、ハイパフォーマンス透析膜の開発、腹膜透析の普及など、様々な技術革新や新たな治療法が開発されたことで透析患者の生命予後は飛躍的に改善された。そして現在、以上に述べた以外にも多くの変革を経てconventionalを確立した。また、オンラインHDFやi-HDFなど新しい治療法の選択も生まれ、さらなる進展を目指している。

一方で、臨床工学技士は1988年、臨床工学技士法の成立により産声をあげた。現在、臨床工学技士の資格取得者数は4万人を超え、多くの臨床工学技士が透析療法に携わっている。機器の多機能化や技術の高度化等の透析療法の進歩によって生じる問題を、臨床工学技士は工学的知識を持ち合わせることでこれらの問題に対応してきた。また、新たに災害対策や透析液の清浄化といった安全管理の面でも役割を担っている。

今回、私からは透析療法に対して歩んできた歴史を今一度振り返りながら、conventionalな透析療法とは何かを考察する。そして今後の透析療法はどのようにconventionalからadvanceしていくのかをテーマに、臨床工学技士の立場から述べてみたい。